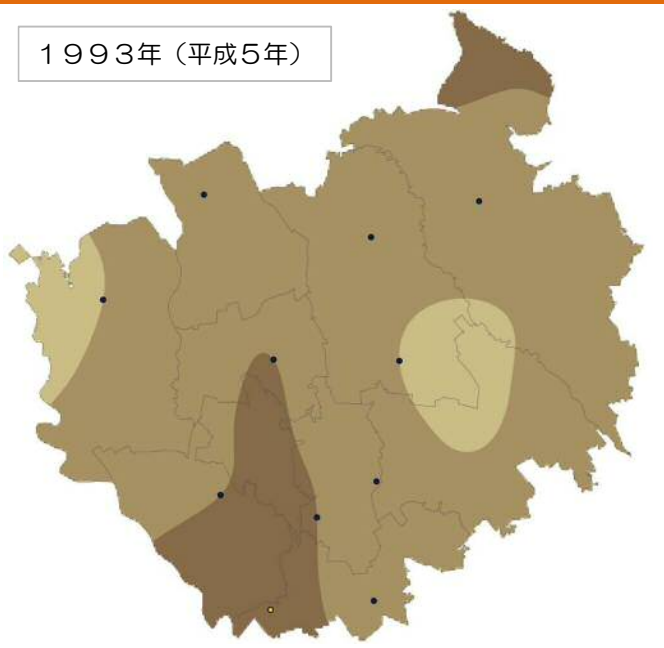
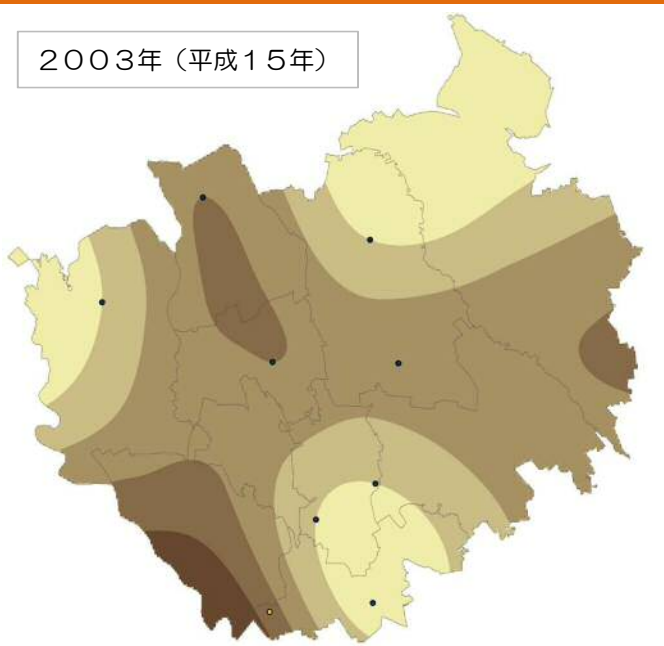


大気中化学物質濃度マップ(二酸化硫黄)

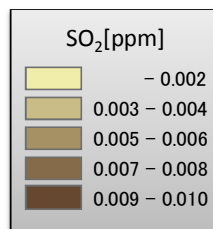
1993年(平成5年)



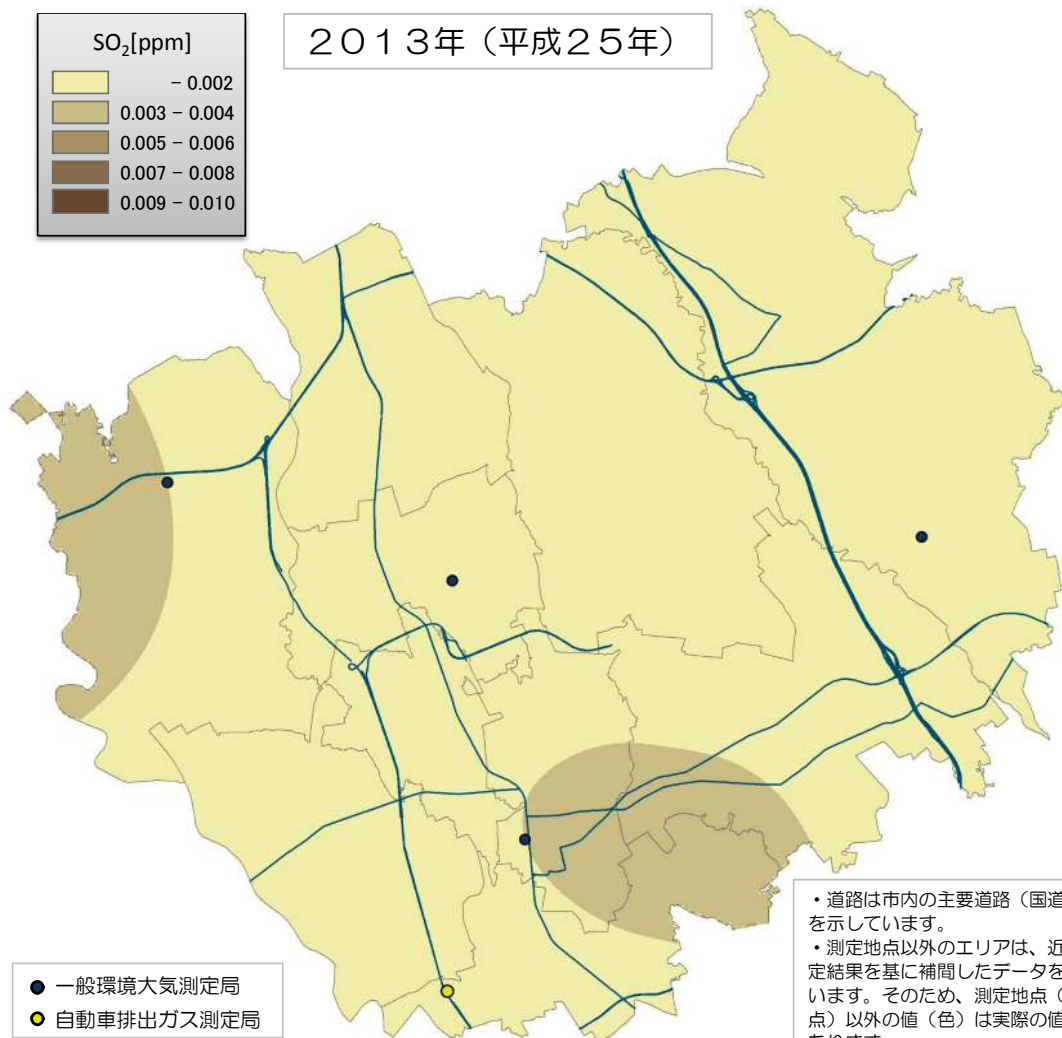
2003年(平成15年)



二酸化硫黄(SO₂)は硫黄酸化物(SO_x)の一種で、硫黄を含む化石燃料(石炭、重油、軽油など)の燃焼により発生します。無色の気体で、卵の腐ったようなにおいが特徴です。主な発生源は自然由来では火山活動、人為起源では工場や自動車などがあります。二酸化硫黄は、呼吸系を刺激するなど人間の健康に影響を及ぼすだけでなく、酸性雨の原因にもなります。さいたま市では
図は、さいたま市内で測定された二酸化硫黄濃度を1993年、2003年、2013年で比較したものです。図中の黒丸が調査地点を示しています。測定地点数は年により変わり、1993年が11地点、2003年は9地点、2013年は5地点でした。
測定地点以外のエリアは、近接する地点の測定結果を基に補間したデータから色分けしています。



2013年(平成25年)



- 一般環境大気測定局
- 自動車排出ガス測定局

- ・道路は市内の主要道路(国道及び高速道路)を示しています。
- ・測定地点以外のエリアは、近接する地点の測定結果を基に補間したデータを用いて表示しています。そのため、測定地点(黒丸で示した地点)以外の値(色)は実際の値と異なる場合があります。